

# 2020年度 活動報告書



# 目次

2020年度活動ダイジェスト	2
代表挨拶	4
SANDSの歩み	5
2020年度の動向と今後の課題	6
SANDSの活動内容	7
総会	8
バディ制度	9
班活動	10
広報活動	12
1016キャンペーン	14
小学校企画	20
後期プロジェクト	21
2020年度活動報告書作成者一覧	22

# 2020年度活動ダイジェスト

4月

- 前期活動
- オンライン新歓



5月

- Instagram 「SDGs月間」



6月

- 班活動

7月



8月



- プロジェクト企画報告会

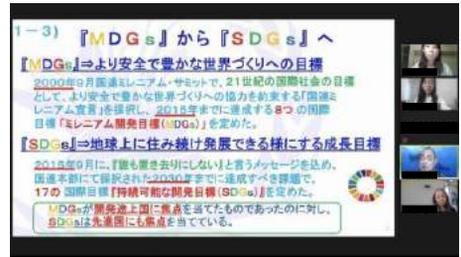
9月

- 後期活動



10月

●1016キャンペーン



11月

●小学校企画

●Instagram 「SDGs LIFE」



12月

●渋谷ごみ撲滅根絶プロジェクト

●教育支援商品開発プロジェクト

1月



センター街付近の様子



2月

3月



# 代表挨拶

## ～潮流の変化に飲み込まれるのか 新たなトレンドを創り出すのか～

激動の2020年度が終わりました。

異例続きだった1年を振り返り、次年度以降新たな1歩を踏み出すための機会として、ここに2020年度SANDSの活動を報告させていただきます。

この1年で世界は大きく変わりました。程度の差はあれど、世界中でロックダウンに似た状態となり、多くの人々が不自由な生活を迫られ、大切な人と直接会うことが難しい1年でした。青山学院大学でもオンライン授業が導入され、SANDSとしてもキャンパスでの活動はかき消されてしまいました。時折、世界のすべてが止まってしまったかのような錯覚にも陥りました。

しかしながら、世界が抱える問題は1日どころか1秒も待つてはくれません。

国連世界食糧計画の発表では、世界全体の飢餓人口が2020年末時点で2億5000万人に達した可能性も指摘されています。

このような社会情勢において、SANDSは以下のビジョン、ミッションを掲げ活動してきました。

ビジョン：『青山学院関係者全員がSDGs当事者の自覚を持ち、SDGsに関しても「渋谷→世界」のトレンドを作り出す』

ミッション：『SDGs達成のために、大学生は何か出来るかを考え、行動し、周りの人へのinfluencerになっていく』

厳しい現実が突き付けられた今こそ、これらで明示している「実際に行動を起こすこと」の重要性が増しているように感じます。

自らを取り巻く環境が著しく変化する中で、2020年度のSANDSはオンライン会議システムを活用し活動してきました。活動に制約の多い1年でしたが、一方でオンラインだからこそできたこともありました。今後、情勢が落ち着き、対面での活動に戻っていくとしても、オンラインを併用するハイブリッド型の活動も視野に入れていく必要があると考えています。

次年度以降の活動につきましては、社会情勢を適切にとらえ、ステークホルダーの皆様とも検討を重ねながら、時宜にあった形で進めていく所存です。

最後になりますが、2020年度のSANDSの活動にご協力いただきました関係者の皆様にも心より御礼申し上げます。次年度以降の活動でも多くの方とビジョンを共有し、実際のアクションとしてSDGs達成に向けて協働していきたいと考えておりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2020年度代表  
東 美咲  
国際経済学科3年

# SANDSの歩み

SANDSは、その前身である1016キャンペーンチームから発展する形で、2019年3月に青山学院大学国際政治経済学部公認学生団体として発足しました。ここではその歩みを簡単に振り返りたいと思います。詳細な活動内容につきましては、各年度の活動報告書をご覧ください。

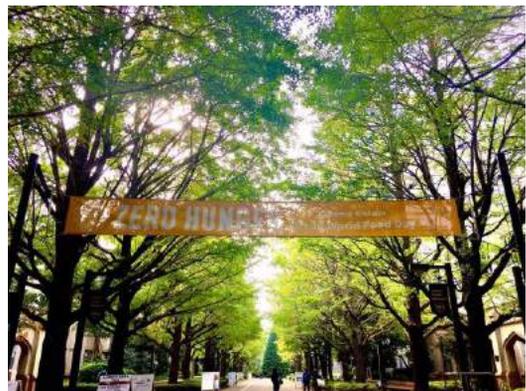
SANDSの前身となった1016キャンペーンチームは、2018年8月に国際政治経済学部所属の有志学生8人が現顧問である内田達也教授のもとに集まり活動を始めました。当初はSDGsのゴール2「飢餓をゼロに」にフォーカスし、10月16日の世界食料デーにあわせて啓発イベント「1016キャンペーン」を実施しました。

同キャンペーン実施後、より広範な社会課題に関心を寄せたメンバーはSDGs全体に関するアクションベースの団体を設立することを目指しました。そこで生まれたのが現在のSANDSです。

正式な立ち上げ1年目の2019年度には「1016キャンペーン」「相模原市市民大学での出張講座」などの活動を実施し、SDGsのゴール1.2.4.12.13.14.15に対するアプローチを試みました。

2年目となった2020年度は、オンラインでの活動となりましたが「1016キャンペーン」「公立小学校での出張授業」などを実施し、SDGs自体の認知を高める活動に尽力してきました。また、メンバー自身の知識研鑽にも努め、知識のインプットとアウトプットを並行して行いました。

組織としては、設立から2年という短い期間で団体内のシステム整備に努めてきました。発足時は8名だったメンバーも、2020年末時点で45名まで増加し、活動が活発化しています。一方で、活動に対する意識の統一などの面で課題も多いと認識しており、組織としての複雑化も指摘されています。これらに対して、今後多くのステークホルダーの皆様と協働できるよう、その基盤となるビジョン、ミッションの言語化やメンバー間の役割分担などを適宜行っていく所存です。



# 2020年度の動向と今後の課題

SANDSにとっての2020年度は、コロナ禍におけるオンライン化の影響を多分に受けたものでした。団体設立からの2年間、常にキャンパスで活動を行ってきた私たちにとって、対面での活動への制限は未知の体験であり、不自由の連続でした。しかし、そのような環境においても、SANDSに所属するメンバーには「社会課題は待ってくれない」「実際に行動を起こすことを止めてはいけない」という強い意志がありました。これらの思いがあったからこそ、オンライン会議システムを活用した活動が成立したと考えています。以下では、より具体的に2020年度のオンラインでの活動を振り返り、そこから見えてきた課題と、次年度への抱負を記したいと思います。

SANDSでは2020年度の全企画をオンラインで実施しました。具体的には、2019年度までは対面で実施していた新入生歓迎イベントやメンバー全員が集まる総会、1016キャンペーン、さらに2020年度新たに取り組んだ小学校ワークショップ等、10以上の企画をオンライン化しました。

移行当初は不自由ばかり目についていたオンライン形式でしたが、一方でその恩恵も大きかったと認識しています。特に、オンライン形式の大きなメリットとして、企画の主催者、参加者双方が「時間」や「実施場所」の制約を受けにくいことがあげられます。この利点をうまく活用することで、対面形式と比較してより多くの人に企画に参加していただくことが可能となり、SDGsの取り組みにおける「参加者」を増やすことにつながりました。このことは、SANDSが行う「啓発活動」の根幹を強化する、非常に重要な利点であると考えています。

このようなメリットの一方で、今後取り組むべき課題も発見しました。対面形式とオンライン形式では「うける」コンテンツに差が存在するという点です。具体的には、参加者間の暗黙の了解や場の空気が醸成されやすい対面形式と異なり、オンライン形式では些細なことも言語化、可視化することで初めて受け手に伝わります。その上でどのようなひねりを利かせるかによって、ただの「参加者」から「当事者」へシフトさせることが可能になるのです。この点において2020年度のSANDSの活動では、前年度の企画を踏襲することも多く、「オンライン形式ならではの」という視点が欠けてしまうことがありました。今年度得た学びをもとに、今後一層の努力を重ね、使用媒体や形式に応じたコンテンツの作成を行っていく必要があると考えています。

以上のように、SANDSにとっての2020年度は、激動の年でありながらも、オンライン形式という新たな手段を獲得した、実りの多い1年でした。次年度以降、より高いレベルでビジョン・ミッションを実現していくためにも、2020年度に得た対面形式、オンライン形式それぞれの強み、課題といった学びを大切に、SDGs当事者を増やすという「結果」にこだわった活動を展開していきたいと考えます。

2020年度副代表  
白井 颯  
国際政治学科2年



# 2020年度 活動内容

# 01 総会



・ 場所：オンライン

・ 参加者人数：SANDS全メンバー

## ・日時と内容

4/18	:	メンバー紹介、 前期SANDSの活動の流れの確認
5/30	:	お楽しみ会
6/15	:	自己紹介、アイスブレイク、 学年別セッション
7/20	:	学年別セッション、パディ制度導入
8/15	:	前期納会
9/21	:	班別プロジェクト企画発表会①
9/27	:	班別プロジェクト企画発表会②
10/5	:	メンバー紹介、 後期班活動・レッドカップについて
10/19	:	前期振り返りセッション
11/2	:	企画、グループワーク
11/16	:	企画、グループワーク
11/30	:	代表選マニフェスト発表
12/14	:	代表選投票日
1/8	:	ブレインストーミング、副代表発表
1/18	:	後期振り返りセッション
2/22	:	今年度の振り返りと人事発表

## ・内容例

### 【プロジェクト企画報告会】

SANDSメンバーを、政府・企業・大学・地方・非政府組織の5つのテーマで班に分けた。班ごとにSDGsとそれぞれのテーマでSANDSとして取り組みたい課題を発見し、解決のためのプロジェクト企画を行った。報告会では企画のプレゼンを行い、コンペ形式で評価した。その後上位に選ばれた企画を実現できるかの精査を行い、それを踏まえて実際の後期のプロジェクト活動につなげた。

### 【振り返りセッション】

後期や来年度の活動を充実したより良いものにするために、現状や今まで取り組んだ活動について振り返り、それらに基づいた個人の目標やアクションプランを立てた。①将来の理想像の言語化 ②過去の自分分析 ③現在の行動の決定、という3ステップで、自分を見つめ直す機会を設けた。その後グループ内で共有し、SANDSの一員としての意識の再確認を行った。

### 【役員が考えた企画】

実際に企業で行われているSDGs関連の取り組みを学習し、その学びを通して自分自身が企業においてどのようにSDGsに貢献できるか、理念や企業方針に基づいて検討した。その後全体で企画を発表し合い、どの案が良かったか投票で決めた。

### 【代表選挙】

前年度は推薦で代表交代を実施したが、2020年度はSANDS初の試みとして立候補を前提とする選挙という形での代表選出が行われた。立候補にあたって、代表候補によるマニフェストや組織改革などの新しい案が出され、選挙管理委員を務めた3年生を除く、有権者であるメンバーがその案を吟味し投票を行った。総会ではマニフェストの読み合わせと候補者による演説を2回にわたって行った。

## ・成果

オンラインという前途多難な環境の中で、定期的に総会を開催することで人と繋がる機会を設け、交友を深めることができた。また、メンバー内でワークを通して様々な意見を交換することで多種多様な物事の見方を共有することができるという利点もあった。

しかしオンラインでの実施という初の試みであったため、企画内容のバリエーションに若干の偏りがあった。次年度では全員の参加する総会をより有意義なものにするために、インプットからアウトプットまで様々なアプローチをとって実施していきたい。

# 02 バディ制度



- ・ 場所：オンライン
- ・ 参加者人数：SANDS全メンバー
- ・ 日時：2020年度後期より始動



## ・ 内容

人数が増えてきた中でメンバーの不安や人間関係、団体の環境をよりよくするために、上級生と下級生でペアを作り、いつでも、些細な内容でも話すことのできる、フランクなコミュニティ形成を行った。頻度を定め、自分が担当したメンバー（基本的には1対1）と時間を共有し、仲良くなることを主として活動を行った。

## ・ 成果

オンラインの環境下でも、少なくとも1人は話しやすい先輩ができたことで、新入生メンバーの心理的な安心感が生まれた。班活動や総会などの複数メンバーとの時間共有ではなく、1対1や2対2という少人数でコミュニケーションをとることにより昨年度よりも先輩後輩を問わず仲良くなることができた。

# 03 班活動



- ・ 場所：オンライン
- ・ 期間：2020年5月～2021年1月
- ・ 参加者人数：SANDS全メンバー  
前期はおためし入会メンバー、後期は新規入会メンバーも参加。  
合計5つの班を作り、それぞれ人数が均等になるようにメンバーを振分けた。

- ・ 5つの班
  - 【大川班】 大学、9人
  - 【大滝班】 非政府組織、9人
  - 【松本班】 地方、9人
  - 【桑原班】 政府、9人
  - 【宇田班】 企業、9人



## ① 班全体について

- ・ 目的
  - 小さなコミュニティでの活動を通じてメンバー間の親睦を深める。
  - SDGsの概要、ゴールの内容と現状、取り組みといったSDGsに関連する内容を定期的に学ぶ場とする。
  - 今後の活動の企画を構想することで、今後の活動の展望と方針を定める。

- ・ 班全体の共通内容
  - 週に1回を目安に、各班ごとにオンラインでミーティングを行った。

- 【前期】
  - SDGs基本的な概要の勉強会
  - 班長が作成した共通資料を基に、班ごとにSDGsの各ゴールの概要を学んだ。

- 企画構想・企画書作成
  - 後期から来年度の活動の中で取り組みたい企画を各班で構想し、企画書にまとめた。各班に「政府」「企業」「NPO/NGO」「大学」「地方自治体」という5つのアクターを振り分け、これらのアクターとSDGsを絡めた企画案を検討した。
  - 5つのアクターを設定した理由は以下2点である。
  - ① SDGsを様々な観点から見つめ直すため
  - ② 今後の団体外の連携と活動の幅を広げるため

- 【後期】
  - SDGsに関連するさらなる知識吸収のための勉強会
  - 定期的な学びの場として、SDGsに関連する勉強会を行った。後期は各班が独自にテーマやミーティングの形態を決めた。



# 03 班活動



## 【大川班】

### <前期>

- ・SDGs17のゴールのレクチャー・クイズ
- ・医療従事者へのメッセージを発信
- ・日本とSDGsを大学の観点から調査
- ・レクチャー・ディスカッション形式の勉強会
- ・上記の調査をもとにプロジェクトを企画

### <後期>

- ・アイスブレイクを重視した班員の交流会
- ・バディごとにトピックを選び、発表。

## 【大滝班】

### <前期>

- ・レクチャー形式での勉強会、基本知識の獲得
- ・NGO・NPOとSDGsをテーマに企画提案

### <後期>

- ・SDGsクイズ大会

## ・成果

前期の活動では、班の各メンバーがそれぞれのSDGsのゴールに関する事をレクチャーしたことにより、1年生にSDGsの概要をインプットさせることができ、上級生も改めて復習することが出来た。また、“地方自治体”や“大学”といった、それぞれの班に割り当てられたアクターを通してプロジェクトを考えることで、昨年度までの活動ではなかった新たな視点、考え方でSANDSにできることを提案する機会となった。

後期の活動では、各班基本的に班のメンバーとの交流に重きを置きながら活動を行ったことで、班内での交流を深めることが出来た。また、プロジェクト中心となった後期の活動の中でも、基本となるSDGsに関する知識の拡大及び共有を怠ることなく行うことが出来た。

1年間の活動を通して、特に1年生はSDGsの基本的な知識のインプットからプロジェクトの企画立案の一連の流れなど、SANDS内での活動における基礎的な考え方を身につけることが出来た。オンラインでの活動を余儀なくされたが、その分個人での活動と班での活動の時間をどちらも十分確保することが出来たという点では、オフラインと遜色ない活動内容だったのではないかと思われる。

来年度の活動が本格的に対面で行われるようになれば、今年度あまり出来なかったほかの班のメンバーとの交流などは対面で行い、無理に対面で行う必要のないものはオンラインで行うという、ハイブリッド型の活動も可能になると考える。

## ② 各班活動について

### 【桑原班】

#### <前期>

- ・レクチャー形式での勉強会
- ・「政府」をテーマにした企画立案

#### <後期>

メンバーの興味のあるトピックに関する出来事についてリサーチ、発表

### 【松本班】

#### <前期>

- ・各ゴールについての内容確認
- ・企画立案

#### <後期>

- ・SDGsゴール、グループ分け、関係図作成
- ・担当ゴールに関する時事的な事項を共有

### 【宇田班】

#### <前期>

- ・レクチャー形式での勉強会
- ・「企業とSDGs」をテーマにした企画案構想、作成

#### <後期>

- ・勉強会  
各月ごとにテーマと担当者を決め、アクティビティを交えた勉強会を実施

# 04 広報活動

## ① SNS投稿



【SDGs月間】  
SDGsとは何か、17のゴールやアクションプランなどの紹介を行った。



- ・ 日時： 通年
- ・ 場所： SNS (Instagram, Twitter)

### ・ 成果

昨年度よりも投稿回数を増やしたことにより、SANDSの活動やSDGsとは何かを知ってもらう機会が増えた。

## 【班活動内容の紹介】



## 【SDGs LIFE】

SANDSメンバーの興味・関心、SDGsを意識した生活の知恵などの紹介を行った。



# 04 広報活動



## ② ジャパンSDGsアクションフェスティバル

- ・ 日時：2021年3月26日（金）～  
2021年3月27日（土）  
SANDSの登壇は3月26日16時～17時
- ・ 場所：オンライン



### ・ 目的

一SANDSという団体の存在やSDGsへの取り組みの周知を図ること。また、SDGsを「自分ごと」化するというイベント全体の目的達成のため、学生団体として一翼を担うこと。

### ・ 内容

一SDGs達成に向けた「行動の10年」を現実のものとする取り組みとして、ジャパンSDGsアクション推進協議会や国連機関などによって開催された、「SDGsアクションフェスティバル」に参加。「国連WFPと一緒にゼロハンガーへ（今日からできるSDGs Action）」のプログラムでSANDSの1016キャンペーンの活動の紹介を行った。

### ・ 関係者

主催：ジャパンSDGsアクション推進協議会  
後援：外務省 / 内閣府 / 金融庁 / 経済産業省 / 環境省 / （一社）日本経済団体連合会 / （公社）経済同友会 / （一社）グローバル・ネットワーク・ジャパン / （公社）日本青年会議所 / （一社）SDGs市民社会ネットワーク / 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム / 神奈川県



### ・ 成果（視聴者数）

イベント両日（リアルタイム）：延べ16,000名  
SANDS登壇チャンネル全体（アーカイブ）：48回  
SANDS登壇プログラム（アーカイブ）：26回  
（4月30日11時現在）

今回のイベントへの参加を通じて、コロナ禍の中でも、大学生をはじめとする誰もが、SDGs当事者の自覚を持つべきであると伝えることができた。そして、「今日からできるSDGsアクション」の実践を促すことができた。

### ・ 公式HP

ジャパンSDGsアクションフェスティバル ([japan-sdgs-action-festival.jp](http://japan-sdgs-action-festival.jp))

・ SANDS登壇部分を含むアーカイブ映像（2021年7月末まで視聴可能）

URL：[https://www.youtube.com/watch?v=KIZc\\_cLi8PI](https://www.youtube.com/watch?v=KIZc_cLi8PI)

# 05 1016キャンペーン



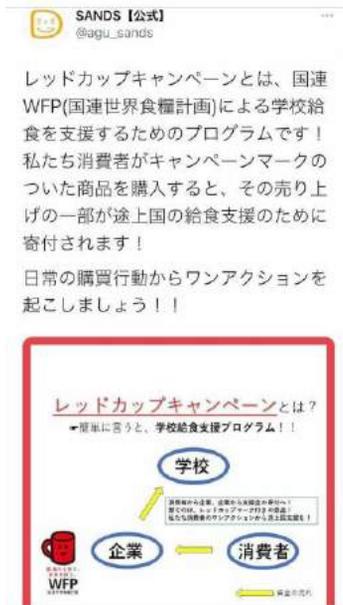
## ・企画名

#Find the value in Red Cup

～"いいね"でつなげる！わたしたちと世界の食料問題～

・場所：SNS (Instagram, Twitter)

・日時：2020年10月12日(月)～  
2020年10月26日(月)



## ① レッドカップキャンペーン

### ・目的

一より多くの学生及び一般の方に貧困・途上国の食料問題に対して興味・関心を持ってもらい、食料問題に関する学びを得てもらう。

一レッドカップキャンペーンの存在と意義、及びレッドカップ対象商品を知ってもらう。その上で実際にレッドカップ商品の購入を促進し、支援につながることを実感してもらう。

一食料問題に対する興味・関心の持続、レッドカップ商品の継続的な購入を促進する。

### ・内容

①食料問題、レッドカップキャンペーンに関する記事をSANDSのSNSに投稿する。

[投稿内容]

一世界の食料問題の現状、南スーダンの現状

一レッドカップキャンペーンの趣旨、マーク付き商品の紹介

一エシカル消費について

②「#findthevalueinredcup」を付け、レッドカップマーク付き商品の購入の写真をSNSに投稿してもらうキャンペーンを実施する。

一本キャンペーンのオリジナルハッシュタグ

「#findthevalueinredcup」を作成する。

一実際にハッシュタグをつけて投稿してくれた方に投稿内容をSNSでコメントと共に取り上げる。また、レッドカップデジタルポスターを2枚作成する。上記①のいいね数、②の投稿数を毎日集計し、数に応じてレッドカップデジタルポスター上にあるレッドカップのメモリを上げていき、カップが満たされていく様子を可視化する。

### ・成果

②のレッドカップマーク付き商品購入の投稿数が想定よりも少なかったという課題は残るが、①の企画では掲げていた目標を達成することができた。この企画の投稿で、一定数の学生に食料問題に興味を持ってもらう機会を与え、レッドカップ商品の認識を高めることに繋がった。

### ・協力

国連WFP協会 瀬上様

# 05

## 1016キャンペーン



### ②食ロス×Zero Hungerキャンペーン

#### ・企画名

食品ロス×Zero Hunger×サルベージレシピ～"もったいない"を"おなかいっぱい"に変えよう～

・場所：SNS (Instagram, Twitter)

・日時：2020年10月12日(月)～  
2020年10月23日(金)

#### ・目的

一日本で起きている食品ロスの現状、及び食品ロスと飢餓の関係性を理解してもらい、食品ロスへの問題意識を高める。

一食品ロスを減らすことの重要性を理解した上で、食品ロスを減らすための取り組みの1つとして「食品をサルベージする」という考えを知ってもらい、サルベージ料理を作ることで実践してもらおう。

#### ・内容

①日本の食品ロスの現状、食品ロスと世界で起きている飢餓問題の関連性、食品ロスをなくすための工夫を説明する内容の投稿を行う。

②オリジナルレシピを考案、またはインターネット上で公開されているサルベージレシピを参考に、サルベージ料理を作る。料理の行程を撮影し、撮影した写真と共にレシピをInstagramにて紹介する。

agu\_sands



皮付き！  
きんぴらごぼう

agu\_sands 皮ごとたべるきんぴらごぼう

今回は皆さんおなじみのきんぴらごぼうをアレンジ。苦役は捨ててしまう野菜の皮を捨てずに、野菜を丸ごと使用した栄養満点、食べ応え満点の一品です！

材料 (2人前)  
・ごぼう 1本  
・にんじん 1本  
・れんこん 1本  
・砂糖 大さじ1.5

#### ・成果

もともと食品ロス、飢餓に興味がなかった人にも、様々なアレンジレシピを紹介することで、食品ロスの現状を訴えかけることができ、またこのような些細な工夫だけでもSDGs目標12「つくる責任つかう責任」の達成に貢献できることも示すことができた。

# 05

## 1016キャンペーン



### ・企画名

「1016×チャットルーム」- Let's Chat About "Food Issues in 2020!!"-

・場所：オンライン

・日時：2020年10月16日(金)

- ① 10:50-11:30(初級)
  - ② 12:30-13:10(中上級)
  - ③ 13:30-14:10(上級)
  - ④ 15:00-15:40(中級)
  - ⑤ 16:00-16:40(初級)
- ※()内は英語レベル

・参加者人数：22人

### ③ 1016×Chat Room

#### ・目的

ー青学生に世界の飢餓・食料問題について、「自分事」として関心を持ってもらい、同年代の人と話し合う動機づけとする。

ーチャットセッションをきっかけに、問題解決に向けて考え、行動する学生を増やす。

#### ・内容

今年度のセッションテーマは“Food issues in 2020”。セッションをクイズタイム(10分)とディスカッションタイム(25分)に分け、参加者が食料問題について理解したうえで、積極的にディスカッションに参加できるようにした。

セッション内容詳細は以下の通り。

オンラインクイズアプリKahoot\*を使って、世界の飢餓・食料問題の概要とCOVID-19によるそれぞれの問題への影響を参加者に伝える。

クイズで得た知識をもとに、グループに分かれて話し合う機会を設ける。議題テーマは、主にCOVID-19と“食”の関係性、食品ロスの削減方法の2つ。

\*Kahoot：オンライン上でクイズ大会ができる無料Webツール。クイズ解答の早さ、正確さが参加者の獲得ポイントに反映され、順位がつく。

#### ・成果

参加者の80%以上の方が「大変満足・満足」したと答えてくださり、有意義な企画となった。参加者は、多種多様なバックグラウンドを持つ留学生と、食品ロスに関する様々な議論を交わしたことで、食料問題に関する新たな知識や視点を得ることができた。

#### ・協力

青山学院大学 国際交流課 Chat Room

# 05

## 1016キャンペーン



### ④ 1016ライブラリー

・企画名  
1016ライブラリー

- ・場所：図書館Webサイト
- ・日時：2020年10月12日(月)～  
2020年10月23日(金)

・目的  
青学生に1016キャンペーンについての関心を持ってもらい、学生自らがアクションを起こしてもらうきっかけとなること。

・内容  
1016・飢餓・食料問題に関する12冊の本のポップを作成する。ポップ、題名、表紙の写真、作者、簡単なあらすじをPDFに掲載し、キャンペーン期間中に図書館Webサイト、Instagramにて紹介する。

・企画名  
あなたのクリックがレッドカップを埋める！！～図書館チーム×レッドカップチーム～

- ・場所：図書館Webサイト  
SANDSのInstagram
- ・日時：2020年10月12日(月)～  
2020年10月23日(金)

・目的  
飢餓・食料問題にどのくらいの人に興味・関心を持ってくれたのかを可視化する。  
徐々に埋まっていくレッドカップのポスターを見た人に、自分も参加してみたいという気持ちを持ってもらうことで、図書館HPへアクセスするというアクションを促進する。

・内容  
図書館Webサイト上に掲載して頂いた飢餓・食料問題の本の紹介のページへのアクセス数をデジタルレッドカップポスターへ反映する。それを定期的にInstagramと図書館Twitterにて投稿する。

・成果  
図書館のお力添えのもと、飢餓・食料問題の現状や取り組みを本から知ってもらうという視点で企画を実施したため、本が好きな人にこのような問題について興味を持ってもらうことができ、SANDSの認知度拡大にも繋がった。

・協力  
青山学院大学 図書館

1016 ライブラリー 『本から知ろう 1016』

題名  
『世界の食料事情』

作者  
『世界の食料事情』編纂委員会 編

あらすじ  
私たちの日常生活に欠かせない食料。食料は人類の歴史を刻み、文化、経済、社会を形作る重要な要素である。食料の生産、流通、消費は、私たちの生活と深く結びついている。本書は、世界の食料事情を詳しく紹介し、食料問題の現状や取り組みについて詳しく解説している。食料問題の現状や取り組みについて詳しく解説している。

おすすめポイント  
食料は私たちの生活に欠かせない重要な要素である。食料の生産、流通、消費は、私たちの生活と深く結びついている。本書は、世界の食料事情を詳しく紹介し、食料問題の現状や取り組みについて詳しく解説している。食料問題の現状や取り組みについて詳しく解説している。

# 05 1016キャンペーン



- ・ 企画名  
国連職員に聞く withコロナ時代のグローバル社会とキャリア
- ・ 場所：オンライン
- ・ 日時：  
2020年10月21日(水) 15：00～16：00
- ・ 参加者人数：33人（関係者以外）  
参加者内訳：学生100%  
(青学生30名・院生1名・他大学生1名・高校生1名)

**国際機関職員に聞く withコロナ時代のグローバル社会とキャリア**

10月21日(水) 15:00～16:00  
オンラインにて開催します

ご不明点等ございましたら  
aga.sasaku.01@gmail.com  
までお問い合わせください。

## ⑤ 講演会

・ 目的  
国連WFPの方々にご講演をいただき、コロナ禍におけるSDGsや食料問題、グローバル社会やキャリアについての知識を得る。現地での状況と合わせて国内における取り組みについても知り、考える機会を作る。

- ・ 内容  
○下村理恵様（国連WFP）  
講義テーマ：  
「国連WFPの支援：世界の飢餓への挑戦」
1. 国連WFPとは？
    - ・ 国連世界食料計画（WFP）
    - ・ 国連WFPの活動現場
  2. 飢餓の現状
    - ・ 世界における飢餓の現状
    - ・ 飢餓を引き起こす主な原因
    - ・ 新型コロナ感染症と飢餓パンデミック
  3. 国連WFPの主な活動
    - ・ 命を救うための人道支援
    - ・ 命を繋ぐための開発支援
      - ①食糧支援
      - ②学校給食：WFPのアプローチ
      - ③母子保健支援
      - ④レジリエンス（強靱性）構築・より効果的な支援を届けるために
  4. ルワンダの事例
    - ・ ルワンダにおける支援

○水口泰介様（国連WFP協会）  
講義テーマ：  
「グローバル化する世界で今何が求められているのか。」  
『SDGs～食べるから見える世界～世界の飢餓と食糧廃棄、国連WFP（国連世界食糧計画）の活動』

- ・ SDGs（持続可能な開発目標）誕生の背景
- ・ 世界の飢餓の実態と国連WFPの活動
- ・ 食品ロスの実態
- ・ 飢餓問題とSDGsの他の目標との関係

・ 成果  
参加者は、SDGs、特に飢餓問題、国連WFPの活動、グローバル社会の中で求められているキャリアについてなど、下村様、水口様の実験の経験から、様々な知識を深めることができた。また、その問題の解決に向けて、参加者自らアクションを起こす動機づけをすることができた貴重な機会となった。

# 05

## 1016キャンペーン



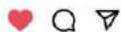
・ 企画名  
映像

・ 場所： SNS (Instagram, Twitter)

・ 日時：

PR動画9月23日(水)～10月23日(金)  
サルベージレシピ動画10月13日(火)～  
10月23日(金)

agu\_sands



agu\_sands 【1016キャンペーンPR】・今年も国連WFPの取り組みに共鳴して、1016キャンペーンを10/12～10/23で開催します👏

あなたは飢餓・食料問題についてどれだけの知識がありますか？  
少しでも関心を持ったことはありますか？

今まで全く意識してなかった人でも簡単にできる取り組みを様々な企画を通して紹介するので、ぜひぜひご参加ください👏

#wfp #agu #sdgs #1016campaign #1016 #worldfoodday  
#aoyamagakuinuniversity #sipec #青学 #青山学院大学 #国際  
政治経済学部 #春から青学 #持続可能な開発目標

### ⑥映像

・ 目的

文字媒体だけではなく、より視覚的に印象に残る形で、キャンペーン全体やレシピ関連の広報をすること。

・ 内容

①1016キャンペーン全体に関する広報用動画の作成と投稿をする。

②サルベージレシピ動画の作成と投稿をする。

#find the Value in RED CUP

#ZERO HUNGER

#1016ライブラリー

#CHAT ROOM

#講演会

・ 成果

①のPR動画では、1016キャンペーンを知らない人でも、この動画だけで企画概要を理解できるものを作成できた。結果として多くの人に再生していただき、沢山のの人にキャンペーンの存在を知ってもらうことができた。また、②のサルベージレシピ動画では、レシピ投稿だけでは伝えきれない詳細な料理過程を共有することで、実際にレシピを参考にしてくれる人の手助けとなった。

# 06 小学校企画



## ・内容

—SDGs概略

—SDGsの眼鏡をかけて世界問題を見る

—SANDSの活動内容



・場所：オンライン

・日時：10月10日（土）  
8：40～11：20  
（先方の時間割の1～3限）

・参加者人数：  
SANDSメンバー5名  
調布市立柏野小6年生 生徒約90名  
先生方4名

## ・目的

2020年度総合の授業内で行われるSDGs単元の導入部分として、SDGsが包括している問題や考え方を児童たちに伝える。

## ・成果

授業終了後の振り返りの時間に、生徒に感想シートを回答していただいた。「SDGsという言葉は初めて聞いた。」「自分には関係ないと思っていたことに意識を向けられるようになった。」などの感想をいただいた。

今回は大学の課外活動規制よりZoomでの開催となったが、本来は対面での開催を打診されていた。対面での開催であればより、授業時間内外児童たちとのより活発な交流が可能となり、より効果的な授業が可能であったと考える。今回は1回のみでの開催であったが、定期的な開催や複数の学年に向けて授業を行うことができれば、小学校生活の中からSDGsの取り組みを行う契機を提供することが可能だと考える。

## ・協力

調布市立柏野小学校6年生の先生方  
調布市立柏野小学校6年生児童の皆さん

# 07 後期プロジェクト



- ・ 場所：オンライン
- ・ 日時：後期から活動開始
- ・ 参加者人数：SANDSメンバー16人  
(A班8人、B班8人)

## ・ 展望

### 【A班】

2021年度頭から企業とのコンタクトを取り始め、購買や青祭での販売を行う。

### 【B班】

企業等に委託をせず、自主製版という形で作成する。完成後は教育ワークショップのコンテンツとしての使用を目指す。

## 商品開発プロジェクト

### ・ 目的

【A班】 青山学院大学から発生するプラスチック製品による汚染を低減させると共に、青学生のプラスチックゴミ問題に対する意識改革をする。また、各個人で行動を起こすことで海洋プラスチックゴミも、プラスチックゴミの廃棄による有毒ガスで死んでしまう生き物も、どちらも無くせるような社会づくりに貢献する。

### 【B班】

カードゲームを通して、学生にSDGsとは何かを正しく、かつ楽しく学び理解してもらう。そしてSDGsを理解した上で、SDGsを「自分ごと」として捉えてもらい、日常生活の中で行動を起こすきっかけをつくりだす。

### ・ 内容

#### 【A班】

環境に優しいプラスチックを用いた日用品を作成・販売を行う。

#### 【B班】

SDGsについて学べるオリジナルカードゲームを開発する。



- ・ 場所：オンライン
- ・ 日時：後期から活動開始
- ・ 参加者人数：SANDSメンバー15人

## 渋谷ゴミ根絶撲滅プロジェクト

### ・ 目的

地域でのSDGs関連問題に取り組み、ポイ捨てゴミの撲滅を行う。

### ・ 内容

渋谷センター街にゴミ箱の設置、音響啓発の実施を目指す。

### ・ 展望

2020年度内に、大学と自治体に企画書を提出。

# 2020年度活動報告書作成者一覧

---

2020年度活動ダイジェスト	2020年度広報	中村 莉緒
代表挨拶	2020年度代表	東 美咲
SANDSについて	2020年度代表	東 美咲
2020年度の動向と今後の課題	2020年度副代表	白井 颯
SANDSの活動内容	2020年度主務	讃井 渚子
・総会	2020年度会計	宮下 俊秀
・バディ制度	2020年度班長	大川 真央 大滝 哲志 宇田 花梨 桑原 颯仁 松本 瑛美
・広報活動	2020年度広報 1016キャンペーンリーダー	松江 清香 山下 結香
・1016キャンペーン	1016キャンペーンリーダー	山下 結香
・小学校企画	2020年度渉外	大岩 麗奈
・後期プロジェクト	商品開発リーダー 渋谷ごみ撲滅根絶副リーダー	大滝 哲志 合田 隆星
-----		
総編集	2020年度広報	中村 莉緒 松江 清香
編集責任者	2020年度代表	東 美咲

# SANDS

## SIPEC and SDGs

- ・ 代表者氏名 : 東 美咲 (2020年度代表・国際政治経済学部3年)
- ・ 所属 : 青山学院大学 国際政治経済学部
- ・ 問い合わせ先 : agu.sands.32@gmail.com
- ・ 公式Instagram : @agu\_sands
- ・ 公式Twitter : @agu\_sands



公式Instagram



公式Twitter

発行日 : 2021年4月30日

